

# 災害に抗して

一般社団法人 全国労働安全衛生研究会

[yamada@peace.email.ne.jp](mailto:yamada@peace.email.ne.jp)

2020・5・9 NO.4

編集 感染症対策研究部会

## 検査も病院も遠ざけられ・・・

## 長い不安の「自粛」「三密」の自己責任は つらい環境だけに、相互監視に「自粛警察」に

### 目次

・つらい環境だけに、相互監視に「自粛警察」に・・・・・・・・・・	1
・不安と恐怖が差別・虐待に・・・・・・・・・・	2
・「自粛警察」関係の新聞報道から・・・・・・・・・・	3
・「ガマンの求め合い」では戦争中の隣組に・・・・・・・・・・	4
・感染への不安と長引く在宅勤務の不安・・・・・・・・・・	5

●マスコミからは、連日コロナ感染症の不安ばかりが報道され、しかも、検査も遠ざけられ、普通の疾病がある人も簡単に病院にも行けない長い日々が続いています。国や自治体の主な感染症対策は「自粛」「三密」の自己責任ばかりの強調です。

●「簡単に検査が受けられない、病院にも行けない」「もし感染したら」の不安のなかでの、「自粛」「三密」です。苦しい中でガマンしての自己責任は、ガマンが足りない人への「いら立ち」になってしまいます。「自分はガマンしているのに、あの人はなんだよ・・・」に、そして「あなたも、ちゃんとすべきでしょ!」と、住民の間の心理からも相互監視的な意味合いも強くなっていくのです。しかもこの事態に便乗してか?より悪質になる人もいるようです。

●感染症における社会の状態は、「差別と偏見を一定程度発生させる」ことをILO(国際労働機構)も指摘し注意をうながしています。しかも日本の場合には特にひどくならざるを得ません。感染症対策の基本である「早期発見・早期隔離・早期入院治療」もなく、検査も足りず「自宅療養」も含めて、地域に感染が野放し状態にされているからです。この環境状態に責任あるのは国と自治体です。

●しかし、住民間の「相互監視」「バッシング」の状態ともなれば、国や自治体の公的責任は、わからなくなり、まずは「安泰」となるのです。下じもの、ぶつかり合い・いじめ合い―「それで結構、結構」という政治ではこまります。(山田)

### 不安と恐怖が差別・虐待に 埼玉県坂戸市議会議員 武井 誠

●4月12日投・開票の坂戸市議選は選挙中に緊急事態宣言が発せられ、活動すればするほど「今は選挙どころではない!」という不満、怒りの声を受ける

厳しい選挙でした。私は新型コロナウイルス対策として「①検査体制の充実 ②無症状、軽症者を含む陽性者へのケア③困窮者への経済的補償④保育、介護、ほか様々な分野の『崩壊』を防ぐ ⑤緊急時に起こりやすい『いじめ・差別』の防止」を主張し、政府の対策の遅れと誤りを厳しく批判しつつ「国や県の誤ったところや足りないところは市で！」と訴え当選、4期目の仕事をスタートしました。今、①から④が不十分であるために⑤が深刻になろうとしています。

●ある市民（70歳女性）からの電話です。「市内の〇〇団地に住んでいるが、隣の換気扇が1日中つけっぱなしだ。その家の誰かが新型コロナウイルスに感染しているのではないかと心配で眠れない。市民4人感染と新聞に出ているが、その人たちがどこでどうしているのか誰も教えてくれない。隣の人なのではないか。教えてほしい」とのこと。また、これはある地方都市に住む友人からの情報ですが「感染者のいることを知られてしまった家族が地域で村八分になり、ローンの残る家を手放し、引っ越していった」とのことです。

「公園でグランドゴルフをしている高齢者に『外へ出るな！』と罵声を浴びせる人がいる」「子どもを公園や家の前で遊ばせていただけで警察に通報された」こういったことが坂戸市でも起こっています。テレビやSNS上では「感染していることを知りながら、山梨から高速バスで東京に戻った女性」への過剰なバッシングが止まりません。「自粛警察」と呼ばれる人たちが「パトロール」を始めているという新聞記事を読みました。

●関東大震災で虐殺された朝鮮・中国の人々、戦前・戦中の相互監視・密告の中で特高、憲兵に連行された人々、福島第一原発事故後の避難先でバッシングやいじめを受けた人々、辺野古の海を守ろうと上京し罵声を浴びた沖縄県の人々、私たちは歴史に学ぶことができないのでしょうか。

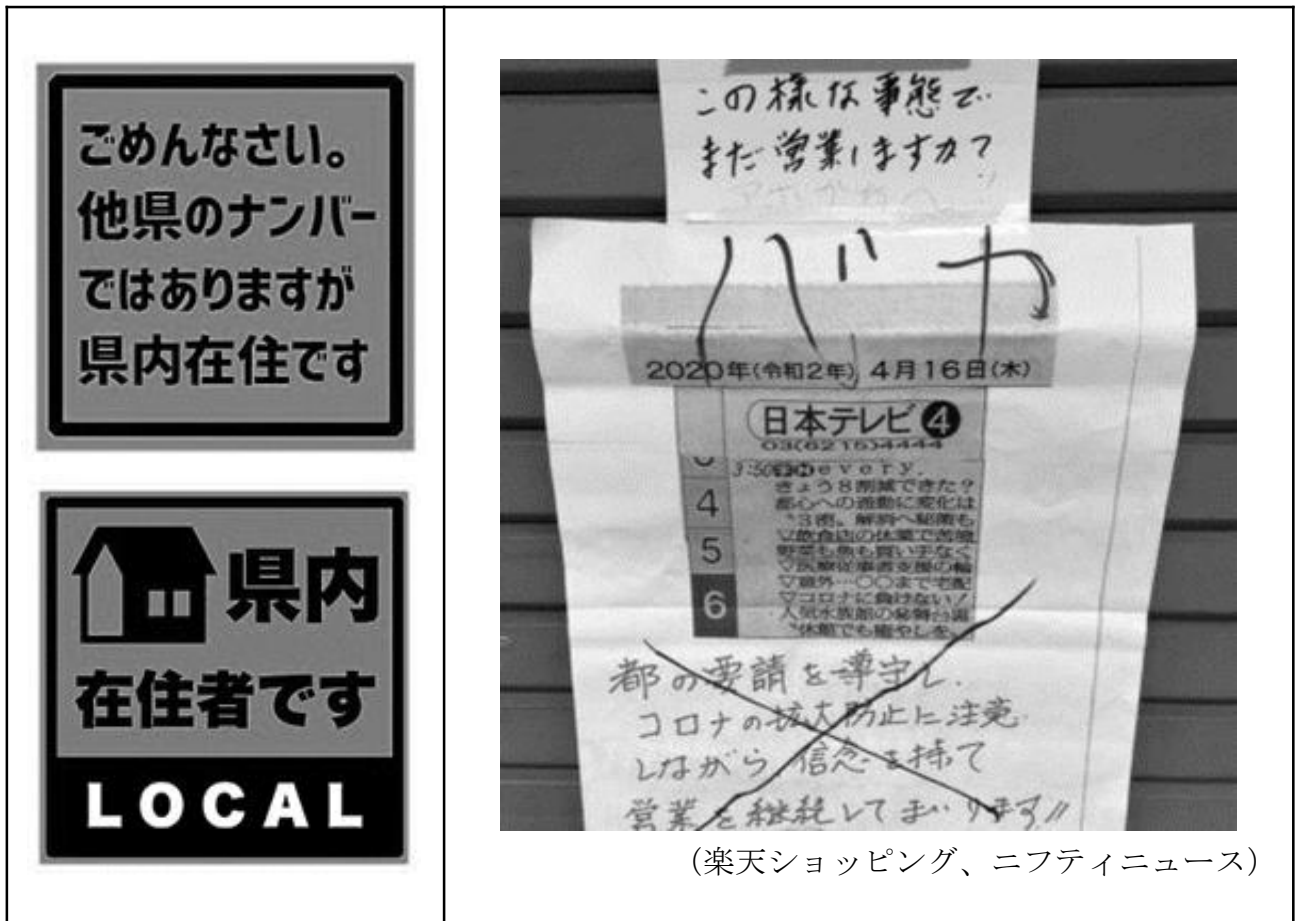
本当のことがわからないために不安と恐怖が生まれ、差別・人権侵害が発生する。為政者によって隠され、歪められている。もちろんそこには意図があります。それは保身と利権と名誉欲ではないのでしょうか。

●私は、小池東京都知事や吉村大阪府知事を信用できません。人を差別する人たちだからです。小池知事は関東大震災で虐殺された朝鮮人犠牲者への追悼メッセージを3年間拒否しています。吉村知事は大阪市長のころ「慰安婦像」の設置を巡りサンフランシスコ市との姉妹都市提携を解消しました。政治の貧困に起因する社会的弱者への想像力をもって、命を大切にする政治が行えるとはとても思えません。この2人が「コロナ禍」対策で高い評価を受けています。

保身と利権と名誉欲、この意図を持った一部の人々がマスコミを操り、虚像を作り上げています。それに踊らされる人たちの心の中にある偏見と（ひとりよがりの）正義感に恐怖を感じるのは私だけでしょうか。

## バッシング 「自粛警察」関係の新聞報道から

●新型コロナ災害でも、「比較的感染者が少ない県で、県外ナンバーの車が投石などの嫌がらせを受けている。一部の自治体は、ドライバーが車に貼ることで県内在住者であることを明示できる画像の提供などを開始。トラブル開始とするが『県外から来た人への差別を煽る』との批判もある」（産経新聞5月5日）。



(楽天ショッピング、ニフティニュース)

● 4月下旬の朝、店のシャッターに「この様な事態でまだ営業しますか？」と書かれた厚紙が貼られてあるのに気が付いた。いわゆる自粛警察ですよね。・・・東京都の要請に従い、営業時間は午後3時から8時までに短縮。いすを間引きし、消毒用アルコールを用意し、換気にも注意を払っている。「店を開けても閉じて、家賃分の60万円分ほどは、月に赤字になる。ならば、従業員や取引先の生活を守り、憩いを求めるお客さんのため、店を続けようと決意した。単なる金儲けじゃない」

貼り紙の主に思いを届けたいと考え「都の要請を遵守し、コロナの拡大防止に注意しながら、信念をもって営業を継続してまいります！」と「回答文」を貼りだしたが、後日「バカ×」と落書き【写真】されていた。「伝わらなくて残念」と肩を落とす。・・・(東京新聞 5月5日)

自己責任の「自粛」「三密」だけでは、  
「ガマンの求め合い」の「相互監視」では戦争中の隣組になってしまう

このことは過去の歴史からも、ありえないことではないのです。このまま放置すれば、戦争中の「隣組」にも似た地域と家族のフニイキにもされかねない危惧もあるのです。

### 隣組（となりぐみ）

1940年～1947年〔昭和15年～22年〕 戦時下の国民総動員体制の末端組織。官庁用語では隣保組とよばれ、部落会・町内会内部の約10戸を単位とする隣保組織で、1940年〔昭和15〕9月11日の内務訓令〈部落会町内会等整備要領〉によって整備された。内務省と警察の指導下におかれ、定期的に常会が開かれ、政府の方針伝達、配給、公債消化、貯蓄、防災防火、防諜などを任務とし、戦時下ファシズム支配の末端組織の役割を果たしたが、第2次世界大戦後GHQの指令によって廃止された。

『日本近現代史辞典』（東洋経済）

隣組とは町内会の下部組織で、今の自治会の「組」とか「班」のようなもので10世帯ほどの組織でした。ご近所の助け合い制度というより、しだいに相互のルールと監視がきつくなり、「負担の求め合い」となりました。

例えば戦争中の「金属の供出」です。戦局の悪化と物資の不足、特に武器生産に必要な金属資源の不足を補うため、住民に金属供出が国から求められました。地域では「まだ出し足らぬ家庭鋳」のスローガンのもとに供出が強制され、鍋や釜・火箸・花器・仏具・時計の鎖・置物・指輪・ネクタイピンに至るまで根こそぎ求められました。供出時に量が少ない家庭があると、隣組の人に「まだ出せるものがあるのでは」と家の中までのぞかれたといえます。

組長は配給や防災訓練の手配の権限がありボスになる人もいて、「非国民」としてボスから目をつけられると配給が減らされるなどの嫌がらせもあり、村八分の状態もあったとされています。〔参照 『戦時中の日本』彩図社〕

困難な状態でのムリした住民間の自己責任による「支え合い」とは、住民負担への相互の求め合いとなり、相互監視と住民の間での制裁となっていたのです。

〔編集部〕

緊急事態宣言下の職場労働条件・賃金補償問題

## 感染への不安と長引く在宅勤務の不安

2020年 4月30日 藤田 研一

### 【高校】

高教組の緊急職場アンケートをもとに分会ニュースを作成し、昨日職場に配布。職場の方々が他校の様子や意見を読んで、視野が広がって考える参考になれば良い。オンライン授業の準備にかかっている先生方は打合せを重ねているようです。

1人5分ぐらい各担当が動画を作成して、生徒に見てもらおうようなもののようにです。私が「私たち世代は、そのような動画で勉強した経験がないので、実際に見て、これは良い、これはちょっとイマイチという感覚がないけど、若い人は経験あるんですか？」

と担当の採用3年目の情報の先生に聞いたら「私らも経験ないんですよ。」とのこと。手探りでやっている感じです。しかし、私が「平常時ではできないが、こういう時だからこそできるようなことが実現すると良いですね。頑張ってください。」と励ましたら、「そうですね。ありがとうございます。」と言っていました。

2年目のI先生（組合員）も含めて、若い人たちは頑張っているな、と力強さを感じました。

やはり、これからは若い人に期待するところが大きいです。我々はそれを支援することですかね。また、養護の先生と話すとき「もし学校が再開になったときに、心配なことがある。①生徒の健康診断を通常通りできるのか？医者に移される危険性が不安だ。②保健室で発熱した生徒を受け入れて休ませることはできない。どう対処したら良いのか？③1クラス40人の教室の中で、どうやって「密」を避けることができるのか？不可能だ。こういうことについて県教委はどのように考えているのか、知りたい。」と言っていました。本当にその通りだろうと思います。おそらくどこの養護の先生方も同様な不安を持っているのでしょう。

## 【農林】

職場風景、段ボールで囲いを作って感染防止ですが、職員20名で在宅勤務7割、この日は出勤者5人、島に一人の割合ですから囲いなど無用でしょう。そもそもこれで防げるものかと疑問に思いますが、「支局長の指示だから、写真送るからちゃんとやって」と目的は感染防止よりも支局長の言うことを聞くこと、やることに意義があるようです。

6月1日から予定していた非常勤雇用がコロナ騒ぎで対応が遅れて15日からに変更になりました。昨日、ハローワークに上げようとしたところで、「時節柄見合わせたらどうか」と管理チーム長（総務）からストップがかけられました。感染リスクがある面接がネックのようで、それなら感染対策を講じて面接をすればいいと思うのですが、面接の責任者である管理チーム長は保身が先に来たのかもしれませんが。

非常勤雇用がないと仕事に差し障りますが、それとは別の問題としてわずか2名の募集ではありますが感染をおそれて募集を中止するって立派な雇用問題ではないでしょうか。公募はしないで採用するということだって、以前はしていたので運用できてもいいのですがそれはやりません。

在宅勤務時の出張や外勤は認められているので、チーム長にどうしたらいいか聞くと、「在宅勤務時の出張や外勤は、出勤カウントになり、代わりの人を在宅にしなくてはならない」と現実是不可とのこと、なんでも内閣官房への実績報告がそうになっているようです。

それでも仕事が回らないと不安に感じている組合員はたくさんいます。

## 【NTT】

木更津から館山に「オーダー支援」という職種の人が、コロナの感染が広がる中、「蜜」を避けリスク回避から、館山に来ていた。5月11日から木更津に戻れと言われ、本人は「感染が収まってない中館山勤務を続けたい」それは「私のわがまま」か、というメールが来た。

そこで

T) MTGの法人営業？は感染した場合のリスクと、事業継続のため無人局だが、社内ネットワークが使える鴨川に人を配置した。鴨川に近い人。こうして感染リスク回避をした。線路系、LMC？MEのネットワーク部分のアクセス系は、保守の分散と時差出勤と聞いている。

Iさんが、当初、最初に木更津から館山に配置された。感染リスクから人を守り、仕事を守るという事だけど、そこには高齢者という事と、遠距離通勤という事が配慮されていた。

高齢者の就労には、加えて会社には安全配慮義務があるから。Uさんはまだ若い方の社員。

感染リスクが更に高くなってきた今、なぜ高齢者を木更津に戻すのか？はなはだ疑問。ローテーション？そうではなくて、感染リスクから社員を守る、という事で、在宅勤務があり、分散があり、テレワークがある。

必要なら、木更津ではなくて、館山に勤務出来る。感染リスクの高い地域から低い地域で事業を継続することが会社の仕事、課長の仕事。館山に配置する方が社員は安全だし、会社のためだと思う。終息してくれば、木更津に喜ばないけど、勤務します。

そういう事だ。

I) アンテナ高いね。でも助かります。私も少し聞いた事はあるけど、活字にしてみると実感する。会社PCイントラに千葉事業部長宛のページがあり、今の状況を投稿できるけど、業務分散の人の入れ替えの投稿はない。しかも業務支援と形を変える投稿もない。

私は業務支援でもう少し館山勤務を続けたい。自分勝手か？

T) そんなこと無い！遠距離通勤はリスクが伴う、減らしたい！そう思ってるはず！だから素直にぶつけたらいい！リスクは多い。いねむり、あおり、事故。そういうマネジメントも課長の仕事！

感染の恐怖は言う！それは、個々人が思ってることだし不安な事だし、それを緩和する。会社も社員も努力する。多くの方はそう考えている。自分勝手でない！感染の恐怖もある！家庭と家族を抱えている。その方法を考える！課長の仕事だけど、社員もその一員！

I) 明日電話で課長と話す、私が非常識なのか、会社が非常識なのか、Tさんの言ったことを参考にして、会社と話してみる……。

全ての職場で、みんな工夫したり 抵抗している。私は激励しか出来ないが……。

## 緊急事態延長が言われる中で賃金補償問題

### 【民間A：組合あり】

5月も4月同様のシフト勤務、幼稚園の児童がいる人は週2日出勤、小学校の児童がいる人は、週1回の勤務。ご主人が現場なので在宅勤務が無い、ほぼ1か月休みになる。勤務したとみなしてパートだが賃金は支給。だから余計に出てきたくないみたい。

### 【民間B：組合あり】

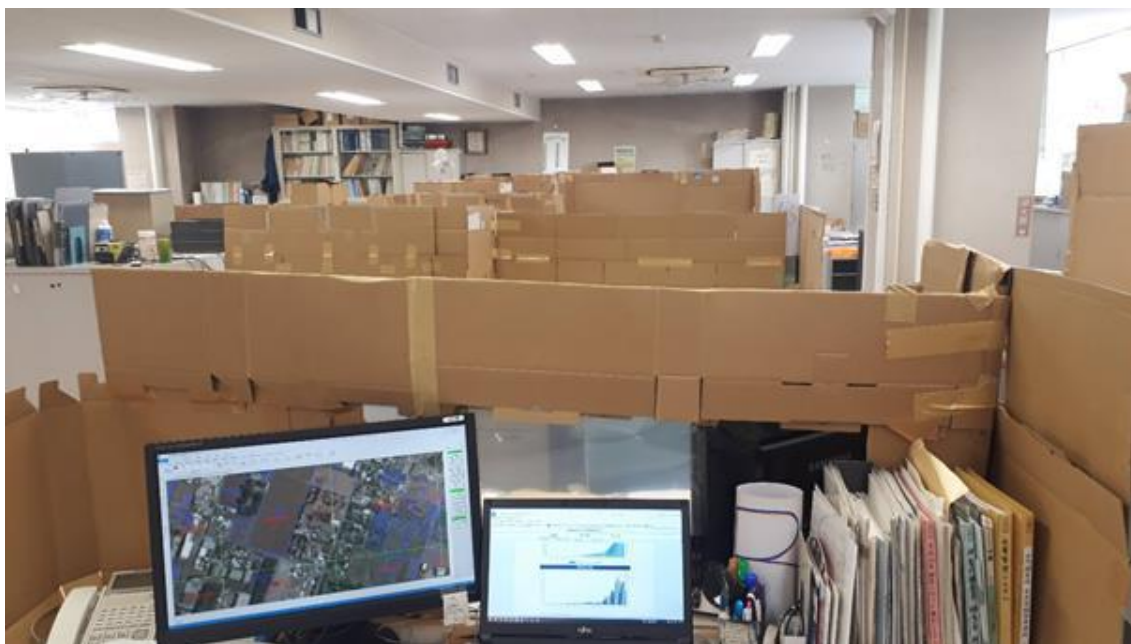
隔日勤務、ありがたいことに給料はでる。

### 【R大学4年】

(R大学は25億円の学生支援を決定したが・・・。)

大学のVPN接続で日経テレコン見ている、一律3万円の支給は貰える。アルバイトが困難な場合の支給については条件次第なので詳細を確認する。不安ではない(就活が出来ず、ESエントリーシートを書くだけ。企業の採用縮小)

## ある職場の写真



この写真の職場についてはいくつも意見があります。

「これでは、顔が見えない 挨拶もできない 隣の人との打合わせは・・・」

「部分照明もないなかで・・・全体照明の影ができるので・・・どうなるのか」

「徹底消毒の散布・拭き掃除の方が安全ではないか。段ボールにウィルスが付着するよ」

「でも、組合で頑張っているから段ボールの対応ではないのか？」

などなどです。ぜひご意見をお寄せください。〔編集部〕